

参考文献

(🔍:キーワード)

秋田喜代美(2000)「アクション・リサーチによる学級内関係性の形成過程」『東京大学大学院教育学研究科紀要』40 151-169

🔍アクション・リサーチ、小学校、教室内談話、教師と研究者間の協働、カンファレンス

秋田喜代美(2005)「学校でのアクション・リサーチ—学校との協働生成的研究—」秋田喜代美・佐藤学・恒吉僚子(編著)『教育研究のメソドロジー—学校参加型マインドのいざない』東京大学出版会 163-183

🔍アクション・リサーチ、学校教育、教師と研究者間の協働、学校変革、同僚性

浅津嘉之・田中信之・中尾桂子(2012)「学習者の意識分析から考える日本語作文授業における非対面ピア・レスポンスの可能性」『応用言語研究論集』5 60-71

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/bitstream/2297/32056/1/1881-686X-ASAZU-Y-59-70.pdf>

🔍日本語作文授業、非対面ピア・レスポンス、対面ピア・レスポンス、学習者意識、学習管理システム(LMS)

浅津嘉之(2013)。「非対面ピア・レスポンスにおける人間関係の構築と維持の特徴」『2013CAJLE Annual Conference Proceedings』11-19.

🔍非対面、ピア・レスポンス、人間関係の構築

跡部千絵美(2014)。「ピア・レスポンス後の推敲種類—個人差に着目して—」『小出記念日本語教育研究会論文集』22 19-31.

🔍推敲種類、個人差、ピア・レスポンス

アレクサンドラ・M(2012)「ロシアの大学における言語生態環境の保全を目指した文語のクラスのデザイン—教材内容を自分の生活とつなげる—」『言語文化と日本語教育』第44号 11-20

🔍文語クラス、言語生態環境の保全、社会問題を取り上げた教材、グループワーク、自己を起点とする

易曉莉(2007a)「日本語作文におけるピア・レスポンスの可能性—中国人初級学習者の場合—」北京外国語大学日本語学研究センター日本語教育専攻修士論文

🔍作文、ピア・レスポンス、可能性、中国人学習者、初級学習者

易曉莉(2007b)「中国における読解授業の現状とピア・ラーニングの試み—上級学習者を分析対象にして—」『日本言語文化研究会論集』第3号 87-114

🔍読解、中国の読解授業、ピア・ラーニング、中国人学習者、上級学習者

池田玲子(1998)「日本語作文におけるピア・レスポンスの効果—中級学習者の場合—」お茶の水女子大学大学院人文科学研究科日本語文化専攻 修士論文

🔍ピア・レスポンス(学習者同士のフィードバック活動、インターアクション、読み手、コンテキスト、アジア系学習者)

池田玲子(1998)「日本語作文におけるピア・レスポンス」『拓殖大学日本語紀要』第8号 拓殖大学留学生別科 217-240

🔍ピア・レスポンス(学習者同士のフィードバック活動、インターアクション、読み手、コ

## ンテキスト、アジア系学習者

池田玲子(1999a)「ピア・レスポンスが可能にすること—中級学習者の場合—」『世界の日本語教育』9号 国際交流基金 29-43

☞ピア・レスポンス、作文の推敲、学習者同士のインターアクション、教師学習者カンファレンス、発話機能

池田玲子(1999b)「日本語作文におけるピア・レスポンスの効果—中級学習者の場合—」『言語文化と日本語教育』17号 お茶の水女子大学日本語文化学会 36-47

☞ピア・レスポンス、作文の推敲、中級学習者

池田玲子(2000a)「アジア系学習者に対するピア・レスポンスについての考察」『拓殖大学日本語紀要』第10号 拓殖大学留学生別科 47-55

☞ピア・レスポンス、作文の推敲、学習者同士のインターアクション、発話機能、アジア系学習者

池田玲子(2000b)「推敲活動の違いによる推敲作業の実際」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第53巻 お茶の水女子大学 203-213

☞教師フィードバック、自己推敲、ピア・レスポンス、推敲方法、テキスト

池田玲子・影山陽子(2000c)「専門のための日本語作文授業の試み」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第5巻 215-226

☞専門科目、作文、協働学習、専門性、上級日本語学習者

池田玲子(2001a)「中上級を対象とする作文指導の方法」岡崎眸・岡崎敏雄 著 『日本語教育における学習の分析とデザイン 言語習得過程の視点から見た日本語教育』105-107 凡人社

☞作文指導、フィードバック、ピア・レスポンス、中上級日本語学習者、協働学習

池田玲子(2001b)「日本語教育におけるピア・レスポンスの研究」お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 博士論文

☞ピア・レスポンス、日本語教育、作文、インターアクション、協働学習

池田玲子(2002)「第二言語教育でのピア・レスポンス研究 ESLから日本語教育に向けて」『言語文化と日本語教育 2002年5月増刊特集号 第二言語習得・教育の研究最前線—あすの日本語教育への道しるべ—』お茶の水女子大学日本語文化学会・凡人社

☞ピア・レスポンス、作文の推敲、インターアクション、協働学習、第二言語教育

池田玲子(2003)「ピア・レスポンスを取り入れた日本語作文指導」(第11回小出記念日本語教育研究会 シンポジウム「作文の評価をめぐって」)『小出記念日本語教育研究会論文集』(11) 131-136

☞ピア・レスポンス、作文指導、作文の評価、フィードバック、協働学習

池田玲子(2004)「日本語学習における学習者同士の相互助言」『日本語学』第23巻1号 明治書院 36-50

☞ピア・レスポンス、協働学習、グループ学習、相互作用、補完と創造による学習

池田玲子(2005a)「アジア系学習者のピア・レスポンスでの学び」『共生時代を生きる日本語教育—言語学博士上野田鶴子先生古希記念論集—』凡人社 203-224

☞ピア・レスポンス、協働学習、アジア系学習者、学習者の学び、共生

池田玲子(2005b)「ピア・ラーニング」『新版日本語教育事典』775-776 大修館書店

☞ピア・レスポンス、協働学習、インターアクション、相互作用、創造による学び

池田玲子(2006)「協働学習としてのピア・レスポンス」『日本語教育ブックレット 9 教室活動における協働を考える』国立国語研究所

☞ピア・レスポンス、協働、協働学習、日本語教室、教室活動

池田玲子・館岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門 創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房 71-109

☞ピア・ラーニング、協働、協働的学習、創造的な学び、教室デザイン

池田玲子 (2008a)「批判的・論理的思考力とコミュニケーション力育成のための日本語表現法—日本語作文ピア・レスポンスの応用—」『日本語教育年鑑 2007 年版』国立国語研究所 くろしお出版

☞ピア・レスポンス、批判的・論理的思考力、コミュニケーション力、日本語表現法、作文

池田玲子・原田三千代(2008b)「言語教育ピア・レスポンスの現状と今後の課題(第二言語習得・教育の研究最前線—2008 年版)『言語文化と日本語教育』46-83

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/51247/1/04\\_46-83.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/51247/1/04_46-83.pdf)

☞ピア・レスポンス、日本語教育のピア・レスポンス、作文教育、ピアレスポンスの応用、東アジアでのピア・レスポンス

池田玲子(2009)「教室の管理者から支援者へ—ピア・ラーニングの教師の学び—」『日本語教育の過去・現在・未来』第2巻 教師 水谷修 監修 133-158 凡人社

☞教師像、日本語教室、ピア・ラーニング、教師の学び、協働学習

池田玲子(2009)「協働的アプローチで授業をデザインする」『日本語表現能力を育む授業のアイデア』27-42 ひつじ書房

☞アカデミック・ジャパニーズ、授業デザイン、プロセス中心、相互活動、協働的アプローチ

池田玲子(2010)「ピア・レスポンスの可能性—日本語作文教育から大学での学術的文章表現教育への応用—」『台湾日本語文学会』第28号 19-42

☞ピア・レスポンス、日本語作文教育、アカデミック・ジャパニーズ、学術的文章表現教育、協働

池田玲子(2010)「ピア・レスポンスの学び合いと教師の役割—学習者に支援される教師の学び—」『教育と医学』第690号 2010年12月 26-34

☞ピア・レスポンス、学習者の学び合い、教師の学び、教師の役割、支援者としての教師

池田玲子・朱桂栄・羅曉勤・倉持香・岩田夏穂(2011)「東アジアの日本語教育協働学習の実践研究のためのネットワーク構築」『天津世界日本語教育世界大会ポスター発表』

☞東アジアの日本語教育、協働学習、実践研究、ネットワーク

池田玲子・館岡洋子(編著)、朱桂栄・林洪・池田玲子・館岡洋子(著)(2014)『日語協作

学習理論と教学実践』(日本語教育基礎 理論と実践シリーズ「日本語教育 協働学習 理論と実践」) 中国高等教育出版

☞日本語教育、協働学習、理論と実践

池田玲子(2014)「グローバル社会におけるアジアの日本語教育への提案—創造力・社会力に育成のためのピア・ラーニング—」『日本語教育研究』韓国日本語教育学会 29 pp.7-23

☞アジアの日本語教育、創造力、社会力、ピア・ラーニング

池田玲子(2015)「実践の共有化とは —協働実践研究の立場から—」『イマ×ココ No.3』ココ出版 pp.7-9

☞実践の共有化、協働実践研究

石田 英夫・大久保 隆弘・星野 裕志(2007)『ケース・メソッド入門』慶応義塾大学出版

☞ケース・メソッド、ローカル企業の展開、流通・ロジスティクス、ホスピタリティ・マネジメント、経営教育

石塚京子・上田安希子・西島道(2009)「学習目的の異なる学習者間での協働学習の可能性—外国人留学生と日本語教員養成課程履修学生との作文交流の実践を通して—」

WEB 版『日本語教育実践研究フォーラム報告』1-10 2009 年度日本語教育実践研究フォーラム

☞協働学習、作文交流、非対面、留学生、日本語養成課程履修学生

石塚京子・上田安希子・岡本能里子・西島道(2010)「留学生と日本語教員養成課程履修学生との協働の学び—作文交流活動の実践を通して—」『日本語教育学会日本語教育学会春季大会予稿集』 321-322

石塚京子・上田安希子・岡本能里子・西島道(2012)「留学生との作文交流における日本語教員養成課程履修生の学び」『日本語教育学会日本語国際研究大会予稿集』 p.43

市嶋典子・舘岡洋子・初見絵里花・広瀬和佳子・古屋憲章(2009)「ハイブリッドな学習コミュニティにおける教育観・学習観の変容 —クリティカル・リーディングの実践を通して—」『WEB 版 日本語教育 実践研究フォーラム報告』

(<http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forumhoukoku/2009forum/round2009/RT-Ditijima.pdf>)

☞ハイブリッド、教育観、学習観、学習コミュニティ、協働

岩崎朱美(2008)「ピア・レスポンス的手法ではどのように推敲されたか—中上級学習者のための作文授業の報告—」『高知大学総合教育センター就学・留学生支援部門紀要』第2号 84-98

<https://ir.kochi-u.ac.jp/dspace/bitstream/10126/4313/1/ryugaku02-084.pdf>

☞ピア・レスポンス、作文授業、添削、推敲、作文例

岩田夏穂(2005)「日本語学習者と母語話者の会話参加における変化・非対称的参加から対称的参加へ」『世界の日本語教育』第15号 国際交流基金 135-151

☞日本語学習者と母語話者、会話参加、対称性と非対称性、イニシアティブ・レスポンス分析、アイデンティティ・カテゴリー

岩田夏穂(2007a)「非母語話者同士の会話参加の様相—留学生の自由会話の場合—」『人間文

化論叢』第9巻 お茶の水女子大学 175-187

<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/2467/1/KJ00004831702.pdf>

☞日本語非母語話者、自由会話、参加の対称性・非対称性、イニシアティブレスポンス分析、アイデンティティ・カテゴリー

岩田夏穂(2007b)「留学生と日本人学生の自由会話に見られる参加の対称性と非対称性」『言語文化と日本語教育』第33号 お茶の水女子大学日本語文化学会 1-10

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50538/1/01\\_001-010.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50538/1/01_001-010.pdf)

☞自由会話、留学生と日本人学生、参加の対称性・非対称性、イニシアティブレスポンス分析、アイデンティティ・カテゴリー

岩田夏穂・小笠恵美子(2007c)「発話機能から見た留学生と日本人学生のピア・レスポンスの可能性」『日本語教育』第133号 57-66

☞ピア・レスポンス、留学生と日本人学生、発話機能、対等性、アカデミック・ジャパニーズ

岩田夏穂(2008)「接触場面の「自由会話」と「対話的問題提起学習の話し合い活動」における会話参加の様相 ―会話参加上の課題解決力を育成する活動デザインに向けて―」お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 国際日本学専攻 博士論文

☞会話参加の対称性、共生言語、会話教育、協働による課題解決、イニシアティブレスポンス分析

岩田夏穂(2009)「大学の日本語教員養成課程の文法授業における留学生と日本人学生の協働学習の試み」『WEB版 日本語教育実践研究フォーラム報告』日本語教育学会

(<http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forumhoukoku/2009forum/round2009/RT-Diwata.pdf>)

☞ピア活動、留学生と日本人学生、話し合い、対等な関係構築、互恵的学び

岩田夏穂(2011)「短期大学のレポート作成の授業における協働的推敲活動(ピア・レスポンス)の試み」『大月短大論集』第42号(2011年3月) 91-106

☞ピア・レスポンス、作文教育、レポート作成、推敲、アカデミック・ジャパニーズ、初年次教育

上田安希子・石塚京子・岡本能里子・西島道(2011)「4コマ漫画を題材とした留学生と日本語教員養成課程履修学生との間の協働の学びの可能性」『日本語教育学会春季大会予稿集』307-308

大石寧子(2014)「国際理解教育」を踏まえた小学校と大学の協働：日本語教育の効果的な係わり方の模索例を通して」『日本語教育方法研究会誌』21(1), pp. 86-87, 日本語教育方法研究会

☞国際理解教育、協働、子供の遊び、パッケージ化、学生サポーター

大石純詩・矢崎満夫(2014)「教育委員会と大学との協働による『日本語指導が必要な児童生徒』への支援の取り組み―静岡市における地域連携プロジェクトの事例から―」

☞教育委員会、大学、協働体制の構築、日本語指導が必要な児童生徒、教育支援

大島弥生・岡本能里子・小笠恵美子・岩田夏穂(2009)「大学における留学生と日本語母語話者学生との協働の学びの設計」 2009 年度日本語教育学会秋季大会 於:九州大学 パネル・セッション

☞ピア・レスポンス、アカデミック・ジャパニーズ、日本語表現能力、協働的アプローチ、

大島弥生・大場理恵子・岩田夏穂(編著)(2009)『日本語表現能力を育む授業のアイデア』ひつじ書房

☞アカデミック・ジャパニーズ、日本人大学生、日本語表現能力、協働的アプローチ、授業デザイン

大島弥生 小笠恵美子 岩田夏穂 岡本能里子 (2009)「大学授業における留学生と日本語母語話者学生との協働の学びの場の設計」『日本語教育学会日本語教育学会 秋季大会発表予稿集』55-66

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂(2004)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房

☞ピア・ラーニング、アカデミック・ジャパニーズ、レポート作成、プロセス中心、協働的アプローチ

大島弥生(2005)「大学初年次の言語表現科目における協働の可能性—チームティーチングとピア・レスポンスを取り入れたコースの試み」『大学教育学会誌』27(1) 158-165

☞チームティーチング、ピア・レスポンス、教員間の協働、学習者間の協働、アカデミック・ジャパニーズ

大島弥生(2009)「語の選択支援の場としてのピア・レスポンスの可能性を考える」(特集 作文教育のための語彙研究)『日本語教育』(140) 15-25

☞ピア・レスポンス、意味交渉、語の選択、アカデミックなジャンル、アップテイク

大塚望(2002)「記述後の活動「ピア・レスポンス」—初級後半日本語学習者の場合—」『留学生センター紀要』第5号 新潟大学留学生センター 39-50

☞ピア・レスポンス、記述後の指導、作文の推敲、初級後半学習者、学習者間の協働

小笠恵美子(2007)「初級レベルの作文授業における協働的学習に向けた試み」『東海大学紀要』27 留学生教育センター 55-66

[http://ci.nii.ac.jp/els/110006459791.pdf?id=ART0008477390&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1383460989&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110006459791.pdf?id=ART0008477390&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1383460989&cp=)

☞初級日本語学習者、協働的学習、作文授業、推敲活動、実践報告

小笠恵美子・岩田夏穂(2005)「レポート作成における留学生と日本人学生のピア・レスポンスの意義」『社会言語科学会第15回大会発表論文集』198-201

☞作文授業、実践報告、協働的学習、初級日本語学習者、推敲活動

岡田靖子(2009)「ピア・レスポンス活動に対する日本人学習者の意識調査」『清泉女子大学人文科学研究所紀要』(30) 119-135

☞ピア・レスポンス、日本人学習者、学習者間の協働、意識調査、アカデミック・ジャパニーズ

岡部純子(2011)「ピア活動と教師フィードバックが書き手の自己推敲力に与える影響」『言

語教育』43-53

<http://kgur.kwansei.ac.jp/dspace/handle/10236/8869>

☞協同学習、ピア活動、教師フィードバック、ピアコメント、自己推敲

岡本能里子(2007)「未来を切り拓く社会実践としての日本語教育の可能性－メディア・リテラシー育成を通じた学びの実践共同体をデザインする」小川貴士編『日本語教育のフロンティア－学習者主体と協働』くろしお出版 79-110

岡本能里子(2010)「国際理解教育におけることばの力の育成－大学における協働学習を通じた日本語教育からの提言－」『国際理解教育』No.16 67-73 国際理解教育学会

岡本能里子(2010)講演：「日本語教育における「協働」学習の可能性と課題」岡本能里子・上田安希子(2010)協働学習ワークショップ モンゴル日本語教師会・国際交流基金・JICA・モンゴル日本大使館後援

岡本能里子(2013)「コミュニケーション能力を超える「能力」とは－マルチリテラシーズにおけるデザイン概念から考える」『コミュニケーション能力の諸相－変移・共創・身体化－』ひつじ書房 373-397

奥田阿子(2014)「iPadを活用した協働学習の試み」『長崎大学言語教育研究センター紀要』2 45-55 長崎大学言語教育研究センター

☞Collaborative learning, ICT, iPad, app

影山陽子(1999)「アクションリサーチ(AR)の可能性－ARは教師の専門性向上に寄与するか」お茶の水女子大学大学院修士論文

☞アクションリサーチ、AR、教師研究、教師の専門性、協働

影山陽子(2001)「上級学習者による推敲活動の実態－ピア・レスポンスと教師フィードバック」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第54巻 107-119

☞ピア・レスポンス、教師フィードバック、上級学習者、作文、推敲活動

影山陽子(2003)「ピア・レスポンスのインターアクションに対する教師フィードバック」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第56巻 103-113

☞ピア・レスポンス、教師フィードバック、インターアクション、作文、学習者間の協働

神村初美(2014)「モダリティから解き明かすピア活動における母語話者の意識の変容－伝達のモダリティとその周辺を中心に－」『日本語研究』第34号 日本語・日本語教育研究会 首都大学東京・東京都立大学 pp.115-128

☞モダリティ、ピア活動、母語話者、意識の変容、伝達

神村初美、江原美恵子、小笠恵美子、中尾桂子、舘岡洋子(2015)「教師間協働の場から生まれる創造的価値 協働実践プロジェクトでの活動を通して」『イマ×ココ No.3』ココ出版 pp.48-62

☞教師間協働、創造的価値、協働実践プロジェクト

唐澤麻里・小浦方理恵・鈴木寿子(2013)「持続可能な生き方を考えるための日本語教師研修の提案－対話的問題提起学習とロールレタリングの協働実践－」『言語文化と日本語教育』(46) 31-38

☞言語生態学、内省、対話、自己・他者・社会理解、生態学的リテラシー

川上麻里(2009)「内容と構成に的を絞ったピア・レスポンス—学習者の反応から見た活動の改善点—」『ICU 日本語教育研究』6 国際基督教大学日本語教育研究センター 63-72  
<http://iss.ndl.go.jp/books/R000000004-I10766748-00>

☞ピア・レスポンス、内容、構成、学習者の反応、活動の改善

川崎直子(2007)「アカデミック・ジャパニーズの実践報告—ピア・レスポンスを通して—」  
『愛知産業大学日本語教育研究所紀要』No.4 5-13

☞アカデミック・ジャパニーズ、ピア・レスポンス、スキャフォールディング、ZPD、実践報告

木村かおり(2007)「通訳授業の試み - 会話授業新形態の提案 -」『マレーシア工科大学 高等専門学校 予備教育センター 研究紀要』第1号 24-30

☞会話授業、ピア活動、高等予備教育、2 学年学生全員参加、文系理系教員間協働

木村かおり(2012)「マレーシアにおける教師の協働的学習の可能性を探る—日本語教師が  
つながる場の構築を目指して—」第9回マレーシア日本語教育研究発表会 ポスター  
発表

☞授業実践報告、国外の学生との協働的学習、教師の協働的学習

金孝卿(2006)「第二言語としての日本語教室における内省活動の研究 『ピア内省』を組み  
込んだ活動デザインの提案」お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 博士論文

☞自律と協働、内省と対話、「ピア内省」活動、第二言語としての日本語、活動デザイン

金孝卿(2008)『第二言語としての日本語教室における「ピア内省」活動の研究』ひつじ書房

☞自律と協働、内省と対話、「ピア内省」活動、第二言語としての日本語、活動デザイン

Nguyễn, Song Lan Anh (グエン ソン ラン アイン)(2005)「グループワーカー結果と展  
望—」『外国語科学ジャーナル 5/12 - 2005』ハノイ大学 39-48

☞グループワーク、グループ活動、協働、ベトナム人学習者、ベトナムの日本語教育

Nguyễn, Song Lan Anh(2009a)「特定課題研究報告 即興スピーチにおけるピア活動の影  
響—ハノイ大学での「話す授業」の改善を目指して—」『日本言語文化研究会論集』5  
195-222

<http://www3.grips.ac.jp/~jlc/files/ronshu2009/Ngyuen.pdf>

☞口頭表現能力、中級レベル、即興スピーチ、ピア活動、不安軽減

Nguyễn, Song Lan Anh(2009b)「即興スピーチにおけるピア活動の実験授業の効果—アン  
ケートとインタビュー調査から—」『外国語科学ジャーナル 21/3 - 2005』(ハノイ大  
学)

☞ピア活動、即興スピーチ、実験授業、アンケート、インタビュー

倉地暁美(1996)「『内なる異文化』の克服：学習援助者育成のジャーナルにおける教師の『学  
び』」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』第50号 119-136

☞内なる異文化 教師の学び 学習援助者育成 対話 異文化学習活動

黒田志保・松崎寛(2008)「ピア・レスポンスにおける教師の役割」『広島大学日本語教育研  
究』(18) 広島大学大学院育学研究科日本語教育学講座 65-70

☞ピア・レスポンス、推敲の視点、教師フィードバックの内化、相乗効果、教師の役割

河野理恵(1997)「『作文訂正』とジャーナル・アプローチ—日本語学習者への効果をめぐって—」『留学生教育』第2号

☞作文教育、ジャーナル・アプローチ、学習者ストラテジー、学習効果、自由な自己表現

河野理恵(2000)「作文教育としての『ジャーナル・アプローチ』の意義」『一橋大学留学生センター紀要』第3号 59-68

<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/8599/1/ryugaku0000300590.pdf>

☞作文教育、ジャーナル・アプローチ、課題作文、作文の論理性、自由な自己表現

小林幸江・何美玲・コバヤシユキエ・ヘミレイ(2014)「Skypeを使った日本語教育の授業の試み—中国福州大学との協働実践—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』(40) 137-152 東京外国語大学留学生日本語教育センター

☞日本語教育、Skype、福州大学、遠隔授業、体験授業

駒田朋子(2002)「協同訂正で作文はよくなるか」『南山大学国際教育センター紀要』第3号 32-38

☞協同、訂正、作文、推敲、フィードバック

駒田朋子(2006)「上級日本語コースの「研究レポート」—「日本人との話し合い」「ピア・フィードバック」を取り入れた活動」『南山大学国際教育センター紀要』第7号 31-50

☞レポート執筆、日本人との話し合い、ピア・フィードバック、振り返り、上級学習者

衣川隆生(2014)「文章の登場人物の感情や意図を学習者はどのように解釈しているか：キーワードに焦点を当てた協働作業を通して」『日本語教育方法研究会誌 21(1) 26-27 日本語教育方法研究会

☞対話、協働、意味表象、意味世界、推論

近藤彩・金孝卿(2010)「「ケース活動」における学びの実態—ビジネス上のコンフリクトの教材化に向けて—」『日本言語文化研究会論集』第6号、国際交流基金日本語国際センター・政策研究大学院大学 <http://www3.grips.ac.jp/~jlc/files/ronshu2010/kondoh%20kim.pdf>

☞ケース、ビジネス、コンフリクト、内省、問題解決

近藤彩(2014)「日本語非母語話者と母語話者が学びあうビジネス・コミュニケーション教育—ダイバーシティの中で活躍できる人材の育成に向けて—」『専門日本語教育研究』第16号、pp.15-22 (寄稿論文)

☞母語話者、非母語話者、ビジネス・コミュニケーション、ダイバーシティ、人材の育成

斉藤紀子・荒木裕子・馬場眞知子(2014)「留学生の就活を支える面接指導の実践」『日本語教育方法研究会誌』21(1) 62-63 日本語教育方法研究会

☞留学生、就活、面接、ビジネス日本語、協働

齋藤ひろみ(2003)「外国人児童生徒の支援ネットワークの可能性」『国際教育評論』1 東京学芸大学国際教育センター 14-27

☞分断された学びの接合、相互関係、問題解決体験の共有化、動的情報、外国人児童生徒

齋藤ひろみ(2005)「第2章 学校と大学の連携 1 授業作りにおける学校と大学の協働」山脇啓造・いちょう小学校編『多文化共生の学校づくり 横浜市立いちょう小学校の挑戦』明石書店 148-156

☞多文化共生教育、学校と大学の連携、小学校、授業づくり、外国人児童

齋藤ひろみ, 原みずほ, 小笠恵美子(2005)「教師と外国人児童保護者の相互理解に向けて—研究者による両者へのインタビューが果たした役割—」『国際教育評論』2 東京学芸大学国際教育センター 90-98

☞アクションリサーチ、教師と外国人児童保護者の相互理解、研究者の役割、代行と代弁、情報の媒介

齋藤ひろみ編(2005)『実践者と研究者の「協働」による実践・研究の試み』東京学芸大学国際教育センター

☞研究プロジェクト報告書、教師・保護者・研究者のつながり、実践・研究コミュニティ、協働、外国人児童

齋藤ひろみ(2005)「子どもたちのことばを育む」授業作り—教師と研究者による実践研究の取り組み』『日本語教育』126号 35-44

☞実践研究、子どもたちの多様化、理論と実践のパラダイム転換、枠組みの再編、協働

齋藤ひろみ・池田玲子・池上摩希子・河野俊之(2009)「ワークショップ型日本語教師研修におけるコーディネータの学び—研修参加者との場の共有化と対話を通して」『リテラシーズ』4 くろしお出版 53-70

☞ワークショップ、教師研修、コーディネータ、協働、学び

佐藤恵美(2002)「協同訂正におけるフィードバックの効果」『南山大学国際教育センター紀要』第3号 63-75

☞協同、訂正、作文、フィードバック、推敲

佐藤公治(1996)『認知心理学からみた読みの世界—対話と協同的学習を目指して—』北大路書房

☞小学校の授業、国語授業、社会的相互作用、主体的な学び、読み

佐藤公治(1999)『対話の中の学びと成長(認識と文化10)』金子書房

☞個人主義的人生観、他者との相互作用、対話空間の創造、精神活動、心理学と人間科学

シャラン, Y. & シャラン, S. (2001)『協同による総合学習の設計』北大路書房

☞グループプロジェクト、相互作用、コミュニケーション、協同的学習、協同的計画

朱桂榮・砂川有里子(2010)「ジグソー学習法を活用した大学院授業における学生の意識変容について—活動間の有機的連携という観点から—」『日本語教育』145 25-36

☞ジグソー学習法, インタビュー, 活動間の有機的連携, 自主的な研究態度, 協働的な研究態度

ジョンソン, D.W.・ジョンソン, R.T.・スミス, K.A. (2001)『学生参加型の大学授業—協同学習への実践ガイド—』関田一彦監訳 玉川大学出版部

☞共同学習、大学教育、建設的討論技法、同僚と協力し合う教員集団作り、実践への励まし

秦松梅 (2012) 「中国人学習者は事前課題と日本語母語話者の参加を取り入れたグループワークによる内容重視の会話授業をどう受け止めたか—中国の大学における日本語専攻クラスの場合—」『言語文化と日本語教育』第 44 号 21-30

☞ 会話教育、会話の真正性、学習者中心、学習者の能動性

杉江修治 (1999) 『バズ学習の研究』 風間書房

☞ バズ学習、協同学習、協同原理、大学授業、グループワーク

杉江修治・関田一彦・安永悟・三宅なほみ編(2004) 『大学授業を活性化する方法』 玉川大学出版部

☞ 大学授業、大学生の学ぶ意欲、大学教師、教授法、実践事例

杉原由美(2006) 「留学生・日本人大学生相互学習型活動における共生の実現をめざして—相互行為に現れる非対称と権力作用の観点から—」『WEB版リテラシー』3(2) 18-27

☞ 多文化共生、非対称性、権力作用、相互行為、会話分析

杉山純子(1999) 「作文クラスの Peer Feedback の可能性：初級半ばの日本語学習者を対象とした試み」『平成 11 年度日本語教育秋季大会予稿集』 81-86

☞ ピア・フィードバック(peer feedback)、作文力の促進、自己推敲、ネゴシエーション・ストラテジー、手紙文

杉山純子他(2002) 「初級レベルにおける総合型言語教育に関する一考察—Peer feedback を取り入れた発表プロジェクト—」『岐阜大学留学生センター紀要 2002』 59-78

☞ 総合型言語教育、初級レベル、ピア・フィードバック(peer feedback)、発表プロジェクト、推敲活動

鈴木寿子 (2013) 『共生社会の構築を支える日本語教師養成の実践研究』 早稲田大学出版部

☞ 共生日本語教育実習、内省モデル、教師の成長、言語生態学、持続可能性教育

鈴木寿子・小浦方理恵・唐澤麻里(2013) 「日本語教師の持続可能な生き方を考えるための取り組み：対話的問題提起学習とロールレタリングの協働実践から」第 45 回日本言語文化学会研究会ポスター発表要旨『言語文化と日本語教育』第 45 号 pp.46-49

☞ 日本語教師、持続可能な生き方、対話的問題提起学習、ロールレタリング、協働実践

鈴木寿子、トンプソン美恵子、房賢嬉、張瑜珊、劉娜 (2014) 「人間の福祉を志向する日本語教師養成論のための実践研究—言語生態学の観点から—」『言語文化教育研究』 12

☞ 生態学的リテラシー、同行者としての教師、協働、対話、グローバル化

静谷麻美・吉村敦美(2009) 「研究計画作成指導の実践報告—『実践研究計画作成法』試用版を使って—」『独立行政法人日本学生支援機構日本語教育センター紀要』(5) 130-144

☞ 研究計画書、大学院進学、プレゼンテーション、情報リテラシー、ピア・レスポンス

関山聡之(2009) 「ペアを固定化したピア・レスポンスに対するビリーフ調査—韓国語母語話者の場合—」『比較文化研究』(89) 93-104

☞ ピア・レスポンス、ペアの固定化、ビリーフ調査、韓国語母語話者、ピア活動

竹長吉正(2003) 「作文の自律的な推敲能力の育成：国語教育に転用可能な日本語教育方法」

- 『全国大学国語教育学会発表要旨集』104 160-163  
 ☞ 作文、自律的な推敲能力、推敲の育成、国語教育への転用、日本語教育方法
- 高垣マユミ(2010)「授業実践に役立つ『話し合い・学び合い』の学習環境論」『教育と医学』58(7) 70-76  
 ☞ 授業実践、話し合い、学び合い、学習環境、認知心理学
- 滝口博子・古内綾子・矢野裕子(2007)「理工系科目で活用できる作文能力の育成を目指した授業について」『JAD 日本語教育報告書』2007年 36-53  
 ☞ 作文授業、ピアレスポンス、マレーシア人学習者、理工系学生、教師のフィードバック
- 武田緑(2011)「受信と発信を目指す「学びの共同体」対話型の授業」『文化外国語専門学校紀要』第24号 1-24  
 ☞ 対話型の授業、学習者主体、共同体、受信と発信、日本語学校
- 館岡洋子(2000)「読解過程における学習者間の相互作用 — ピア・リーディングの可能性をめぐって」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』23 25-50  
 ☞ 読解過程の共有化、協働的学習、学習者間の相互作用、ピア・リーディング、読解授業
- 館岡洋子(2003)「読解授業における協働的学習」『東海大学紀要 — 留学生教育センター』23 67-83  
 ☞ 協働的学習、ピア・リーディング、対話的学習、創発、相互作用
- 館岡洋子(2004)「対話的協働学習の可能性 — ピア・リーディングの実践からの検討」『東海大学紀要 — 留学生教育センター』24 37-46 [PDF : CiNii]  
 ☞ 対話的協働学習、ピア・リーディング、社会的活動としての読解、互惠的学び、相互作用
- 館岡洋子(2005)『ひとりで読むことからピア・リーディングへ—日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』東海大学出版会  
 ☞ 読解授業、日本語学習者、読みの過程、ピア・リーディング、対話的協働学習
- 館岡洋子(2006a)「読解授業における教師主導と協働的学習—2つのアプローチから協働の教室デザインを考える—」『東海大学紀要 留学生教育センター』26 33-48 [PDF : CiNii]  
 ☞ 教師主導による読解授業、協働による読解授業、教室デザイン、対話による学び、インタラクティブ
- 館岡洋子(2006b)「協働的学習は学びあいになるか — 学びにつながる協働的学習を考える」『高見澤孟先生古希記念論文集』81-92.高見澤孟先生古希記念論文集編集委員会  
 ☞ 協働的学習、学びあい、読解授業、対話、相互作用
- 館岡洋子(2006d)「教室における協働を考える — ピア・リーディングの実践と意義」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』3 1-15  
 ☞ 教室デザイン、協働的学習、ピア・リーディング、実践研究、対話による学び
- 館岡洋子(2007a)「対話的協働学習における学び—ひとりで読むことからピア・リーディングへ」『日本語教育年鑑 2007年版』第1章 特集「自律的学習を支える日本語の教育」20-31 くらしお出版  
 ☞ 対話的協働学習、ピア・リーディング、読解、読みの過程、学びあい

館岡洋子(2007b)「協働学習としてのピア・リーディング」『日本語教育ブックレット9— 教室活動における協働を考える』国立国語研究所

☞協働的学習、ピア・リーディング、対話による学び、創発、読解

館岡洋子(2007c)「ピア・ラーニング」『国際交流基金 日本語教育通信』59号(日本語・日本語教育を研究する 第33回)

(<http://www.jpfi.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/reserch/033.html>)

☞ピア・ラーニング、協働的学習、互惠的学び、学習観・教育観の転換、学びの場の提供

館岡洋子(2008)「協働による学びのデザイン— 協働的学習における実践から立ちあがる理論」細川英雄・ことばと文化の教育を考える会(編)『ことばの教育を実践する・探求する— 活動型日本語教育の広がり』凡人社 41-56

☞協働、学習環境のデザイン、実践研究、創発、集合的学び

館岡洋子(2010)「多様な価値づけのせめぎあいの場としての教室— 授業のあり方を語り合う授業と教師の実践研究」『早稲田日本語教育学』7 1-24

(<http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/29807>)

☞授業への価値づけ、実践研究、動態性、価値づけのせめぎあい、いっしょに創る

館岡洋子・近藤彩・金孝卿(2011)「協働型授業を実施するための教員養成/教師研修のあり方を考える」『天津世界日本語教育世界大会口頭発表』

☞協働型授業、教員養成、教師研修

館岡洋子(2011)「協働による学びがはぐくむことばの力—『教室で読む』ということをめぐる」『早稲田日本語教育学』9 pp.41-49

☞協働、読む、教室、対話、せめぎあい

館岡洋子(2012)「テキストを媒介とした学習コミュニティの生成—二重の対話の場としての教室—」『早稲田日本語教育実践研究』1 pp.57-70

<http://hdl.handle.net/2065/34125>

☞テキスト、読む、二重の対話、学習コミュニティ、協働

館岡洋子(2013)「日本語教育におけるピア・ラーニング」中谷素之・伊藤崇達(編)『ピア・ラーニング—学び合いの心理学』金子書房 pp.187-203

☞日本語教育、ピア・ラーニング、学び合い、心理学

館岡洋子(2013)「교수법에서 학습환경디자인으로—피어러닝 실천으로부터 생각하다.」

한미경(편)『일본어학과 일본어 7—일본어교육』[教授法から学習環境デザインへ—ピア・ラーニングの実践から考える. 韓美卿(編)『日本語学・日本語教育 7—日本語教育』제이앤씨(J & C) pp. 69-103

☞学習環境デザイン、ピア・ラーニング、日本語教育

館岡洋子(2015)(編著)『協働で学ぶクリティカル・リーディング』ひつじ書房 2015年7月

☞協働、クリティカル・リーディング

田中信之・北直美(1996)「日本語教育における学習者の作文に対する学習信念」『北陸大学紀要』20 325-334

☞作文力、自己訂正、ピア・レビュー、学習信念、成績上位群と下位群

田中信之(2005)「中国人学習者を対象としたピア・レスポンス・ビリーフ調査をもとに」『日本語教育』第126号 144-153

☞中国人学習者、ピア・レスポンス、作文についての話し合い、ビリーフ、インタビュー

田中信之(2006)「中国人学習者を対象としたピア・レスポンス・ビリーフ調査から話し合いの問題点を探る」『小出記念日本語教育研究会論文集』第14号 21-33

☞中国人学習者、ピア・レスポンス、作文についての話し合い、ビリーフ、インタビュー

田中信之(2007)「ピア・レスポンスにおける話し合い—話し合いの言語とグループ編成についての考察」『北陸大学紀要』(31) 201-211

☞ピア・レスポンス、作文、話し合い、使用言語、グループ編成

田中信之(2008)「ピア・レスポンスの効果：作文プロダクトの観点から」『応用言語学研究論集』21-10 金沢大学

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/bitstream/2297/12671/1/2-1.pdf>

☞ピア・レスポンス、作文プロダクト、推敲原稿の変化と評価、分散分析、作文の意味変化

田中信之(2009)「自律的な書き手を育成する活動としてのピア・レスポンス—学習者のピア・レスポンスへの適応過程の分析を通して—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』1 25-36

☞ピア・レスポンス、協働学習、テキストマイニング、自律的書き手、推敲プロセス

<http://www.academicjapanese.org/AJJ1-pdf/25-36-tanaka.pdf>

田中信之(2010)「学習者作文に対するピア・フィードバックの分析—フィードバックの教示と推敲の二つの観点から—」『小出記念日本語教育研究会論文集』第18号 81-94

[http://www.koidekinen.com/pdf/2010\\_tanaka.pdf](http://www.koidekinen.com/pdf/2010_tanaka.pdf)

☞ピア・レスポンス、ピア・フィードバック、フィードバックの教示、推敲、作文の内容・構成

田中信之(2011a)「ピア・レスポンスが推敲作文に及ぼす影響—分析方法とフィードバックの教示に注目して—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』3 9-20

☞ピア・レスポンス、推敲、作文の内容・構成、分析方法、フィードバックの教示

田中信之(2011b)「日本語教育におけるピア・レスポンスの研究—有効性と自律性の観点から—」金沢大学大学院社会環境科学研究科博士論文

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/bitstream/2297/31556/4/HU-Thesis-TANA-KA-N-199.pdf>

田畑理咲(2007)「ティーチングからコーチングへ—日本語教育への応用に関する一考察」『日本語教育と異文化理解』6 1-9

☞コーチング、ティーチング、プロジェクトワーク、ピア・レスポンス、タスク先行型教育

立間智子(2010)「ピア・ラーニング利用による自律学習、協働的学習を促す学習環境デザインの

試み—アゼルバイジャンにおける日本語学習者と邦人との交流活動『日本語会話クラブ』の実践—『国際交流基金日本語教育紀要』6 独立行政法人国際交流基金 139-155

☞孤立環境、ビリーフス、ピア・ラーニング、協働、学習環境デザイン

崔鉉弼(2012)「教師と研究者間の協働による授業改善の試み—大学の日本語授業の『制約』を乗り越えて—」『外国語教育研究』26-2 191-212

☞教師と研究者間の協働、教師の成長、制約、カンファレンス、越境

張瑜珊・原田三千代(2009)「研究生のための『アカデミック日本語教室』の試み—協働で学ぶ研究計画書作成」『言語文化と日本語教育』37 31-40

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/51941/1/04\\_031-040.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/51941/1/04_031-040.pdf)

☞アカデミック・ジャパニーズ、研究生、ティーム・ティーチング、協働、研究計画書作成

土屋千尋(2005)『つたえあう日本語教育実習—外国人集住地域でのこころみ』明石書店

☞日本語教育実習、外国人集住地域、ボランティア日本語教室、移民社会、年少者日本語教育

土屋千尋・齋藤ひろみ(2008)『学校・大学・地域の連携・協働による外国人児童の学習環境作りに関する実践的研究』平成17-19年度科学研究費補助金研究成果報告書

☞外国人集住地域の小学校、学校・大学・地域の連携と協働、こどものための学習環境づくり、外国人児童生徒、支援ネットワーク

鄭恵允(1999)「『ジャーナル・アプローチ』による日本語習得に関する研究—異文化間接触に基づいた日本語教育論の構築に向けて—」『人文科教育研究』第26号 73-81

☞ジャーナル・アプローチ、異文化間相互作用、日本語習得の援助モデル、自己管理型の学習者

栃木英子(2005)「『協働型ジャーナル・アプローチ』の試み—にほんご・わせだの森『日記グループ』での実践を通して—」『日本語教育実践研究』第5号 13-22

☞協働型ジャーナル・アプローチ、協働学習、自己評価、学習運営

徳間望(2007)「ピア・レスポンスによって推敲の着眼点は変化するか—中級レベルにおける3カ月の試み—」『第16回小出記念日本語教育研究会予稿集』小出記念日本語教育研究会 71-75

☞ピア・レスポンス、自律的推敲、推敲の着眼点、推敲の個人差、ピア・レスポンス活動への習熟

Donald R. Woods (1994) Problem-based Learning: How to gain the most from PBL. Waterdown, Ont. ドナルド R.ウッズ 新道幸恵 訳(2004)『PBL (Problem-based Learning) 判断力を高める主体的学習』医学書院

☞PBL (Problem-based Learning)、問題解決技法、自主的・効果的学習法、学習環境の提供、習得すべき自己評価

Dpherty Kristen(1999)「中級レベルのESL(第二言語としての英語)作文の授業でピア・レスポンス・グループ学習(級友間相互学習)を行うべきか?」『論文』46(1) 29-40

☞ESL 作文、英語教育、ピア・レスポンス、グループ学習、中級レベル

富永敦子・向後千春(2008)「継続的なピア・レスポンスによる文章作成技能の変化」『日本

『教育心理学会総会発表論文集』50 763

☞ピア・レスポンス、日本人の文章作成技能の変化、e-learning、グループワーク、分散分析

富永敦子・向後千春(2009)「ピア・レスポンス指向性と役立ち度との関連」『日本教育工学会第25回全国大会講演論文集』461-462

☞協働学習、高等教育、学習者特性、ピア・レスポンス、尺度

富永敦子(2009)「ピア・レスポンスを取り入れた大学の文章作成指導の実践」『人間科学研究』22(補遺号) 86 (修論要旨)

☞ピア・レスポンス、協働学習、高等教育、大学生の文章作成、文章作成指導

富永敦子・向後千春(2010)「ピア・レスポンスに対する満足度とその理由」『日本教育工学会研究報告集』JSET10-2 95-102

[http://tomi0730.com/tomi\\_blog/study/genko20100515.pdf](http://tomi0730.com/tomi_blog/study/genko20100515.pdf)

☞協働学習、文章作成、ブレンド型授業、満足度、ピア

富永敦子(2011)「ピア・レスポンスに対する満足度および理由に関する調査」『大学教育学会誌』第33巻 第1号(通巻第63号)2011年5月 122-129

☞文章表現授業、ピア、満足度、ブレンド型授業、協働による学習

富永敦子(2012)「文章表現授業における大学生のピア・レスポンス志向性の変化と要因の分析」『日本教育工学会論文誌』第36巻 第3号 301-311

☞文章表現授業、ピア・レスポンス、ピア・レスポンス指向性、共同学習、共分散構造分析、授業評価

富並美希(2014)「専門学校のNIE授業と協働学習」『日本語教育方法研究会誌』21(1), pp. 40-41, 日本語教育方法研究会

☞NIE、口頭発表、発音練習、協働学習

寅丸真澄(2014)「教室活動におけることばの学びとは何か：〈自己〉〈他者〉〈教室コミュニティ〉間の意味の協働構築過程に着目して」『早稲田日本語教育学』14-16, pp.1-24, 早稲田大学大学院日本語教育研究科

☞教室活動、相互行為におけることばの学び、自己・他者・教室コミュニティ、記号的意味と存在的意味の協働構築、縦断的分析

鳥居俊祐(2012)「中国の大学生を対象としたピア・レスポンスに関する意識調査—自律的推敲促進の観点より—」『Polyglossia』23 立命館アジア太平洋研究センター  
[r-cube.ritsumei.ac.jp/bitstream/10367/3959/1/17](http://r-cube.ritsumei.ac.jp/bitstream/10367/3959/1/17)

☞中国の大学生、日本語作文、ピア・レスポンス(peer response)、自律的推敲、フィードバック

中尾佳子(2013)「文系短大生の学期末レポートの論文らしさ」『大妻国文』44 1-26 大妻女子大学国文学会

中尾佳子・田中信之「ピア・レスポンス後の文章における『論理性』と『主観性』」『2013 CAJLE

Annual Conference Proceedings』10 172-181

☞ピア・レスポンス、論理性、主観性

中西久実子・村上正行・上田早苗(2010)「大学 SNS を活用した日本語教育ピア・レスポンス—SNS 上での交流を活発にする要因とは—」『JSiSE Research Report』vol.24 no.7

☞SNS、ピア・レスポンス、ファシリテーター、相互評価、十全的参加者

成田昌子(2009)「作文のフィードバックに関する教師の意識調査」『文化外国語専門学校紀要』22 25-43

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40016456221>

☞作文指導、添削、フィードバック、モデル作文、ピア・レスポンス

西島道・石塚京子・上田安希子・岡本能里子 (2013)「日本語教員養成課程履修生との協働学習による留学生の学び—作文交流活動を通じた実践から—」『日本語教育学会春季大会予稿集』305-306

西山友恵・久野由宇子 (2014)「学習者が体得したスキルを伝える「グループワーク虎の巻」の作成と活用：協働学習を取り入れて中級教科書の学びを深める試み」『日本語教育方法研究会誌』21(1) 28-29 日本語教育方法研究会

☞中級教科書の授業、グループワーク、「虎の巻」、協働学習、スキル

野々口ちとせ(2010)「共生を目指す対話をどう築くか—他者と問題を共有し『自分たちの問題』として捉える過程—」『日本語教育』144 79-89

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40016986092>

☞対話、問題提起、認識、相互学習、協働

Fong Foong Beng(2012)「ピアレビューを用いた作文授業」第9回浦和研修報告会 ポスター発表

☞ピアレビュー、作文授業、中級への移行期

原田三千代 (2005)「日本語中級作文におけるピア・レスポンス活動の可能性 —活動プロセスと作文プロダクトの観点から—」お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 修士論文

<http://ci.nii.ac.jp/naid/120002836328>

☞ピア・レスポンス、活動プロセス、作文プロダクト、教師添削、協働学習

原田三千代(2006a)「中級日本語作文における学習者の相互支援活動—言語能力の差はピア・レスポンスにとって負の要因か—」『世界の日本語教育』第16号 国際交流基金 53-73

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110004762736>

☞相互支援活動、ピア・レスポンス、協働、対話、双方向

原田三千代(2006b)「中級学習者の作文推敲過程に与えるピア・レスポンスの影響—教師添削との比較」『日本語教育』第131号 3-12

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40015171509>

☞ピア・レスポンス、自己推敲、ZPD、内化、教師添削

原田三千代(2007a)「作文の変化にピア・レスポンスがどのように関わったか—中級日本語学習者の場合—」『小出記念日本語教育研究会論文集』第 15 号 小出記念日本語教育研究会 55-70

[http://www.koidekinen.com/pdf/2007\\_harata.pdf](http://www.koidekinen.com/pdf/2007_harata.pdf)

☞ピア・レスポンス、作文の質的向上、協働作文、足場作り、内省

原田三千代(2007b)『「協働性」に着目した教室活動としてのピア・レスポンスの可能性—活動プロセスの分析を中心に—』(第 34 回お茶の水女子大学日本語文化学会発表要旨)『言語文化と日本語教育』(34) 31-34

<http://ci.nii.ac.jp/naid/120002836461>

☞協働性、活動プロセス、社会的相互作用、自己推敲、ピア・レスポンス

原田三千代(2008a)『「協働性」に着目した第二言語教室活動としてのピア・レスポンスの可能性—活動プロセスの分析を中心に—』お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 博士論文

<http://ci.nii.ac.jp/naid/120002836520>

☞協働性、活動プロセス、社会的相互作用、自己推敲、ピア・レスポンス

原田三千代(2008b)「多言語・多文化を背景とした教室活動としてのピア・レスポンスの可能性—「協働性」に着目した活動プロセスの分析—」『多言語多文化 実践と研究』vol.1 東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター 27-53

<http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/45451/1/mlmc001002.pdf>

☞多言語多文化、教室活動、活動プロセス、社会的相互作用、ピア・レスポンス

原田三千代(2009)「協働作文活動としてのピア・レスポンスに対する認識の変容過程—M-GTA によるインタビューの分析から—」『BATJ Journal』No.10 1-20

[http://www.batj.org.uk/images/journal/batj\\_journal10\\_abstracts.pdf](http://www.batj.org.uk/images/journal/batj_journal10_abstracts.pdf)

☞協働作文活動、ピア・レスポンス、認識、変容過程、M-GTA

原田三千代(2010)「大学院進学予備教育における持続可能性日本語教育の試み—元日本語教師の PAC 分析より—」『人間文化創成科学論叢』第 12 巻 お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 353-362

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/49043/1/37\\_353-362.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/49043/1/37_353-362.pdf)

☞大学院進学予備教育、持続可能性日本語教育、内容重視の言語教育、PAC 分析、アカデミック・ジャパニーズ

原田三千代(2011)『「協働性」に着目した第二言語教室活動としてのピア・レスポンスの研究—活動プロセス・作文プロダクト・学習者の認識の観点から』外文出版社

☞協働性、活動プロセス、社会的相互作用、自己推敲、ピア・レスポンス

原田三千代(2011)「大学院進学予備教育における持続可能性日本語教育の試み—社会人進学予定者の研究に対する態度構造の分析より—」『桜美林大学言語教育論叢』1-16

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110008658974>

☞アカデミック・スキル、ツールとしての言語教育、内容重視の言語教育、持続可能性日本語教育、PAC 分析

原田三千代(2011)「大学院進学予備教育における協働学習に対する認識の変化—中国人留学生に対する PAC 分析より—」WEB 版『日本語教育実践研究フォーラム報告』

[http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forumhoukoku/2011forum/2011\\_RTA\\_harata.pdf](http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forumhoukoku/2011forum/2011_RTA_harata.pdf)

☞大学院進学予備教育、協働学習、態度構造、PAC分析、社会的相互作用

原田三千代(2012)「中国語母語話者留学生の研究に対する態度構造の分析—大学院進学予備教育における持続可能性日本語教育に向けて—」『桜美林言語教育論叢』第8号

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019351415>

☞大学院進学予備教育、持続可能性日本語教育、PAC分析、態度構造、言語生態

原田三千代(2013)「大学院進学予備教育における持続可能性日本語教育の試み—『論文読解』の教室活動より—」『桜美林言語教育論叢』第9号 35-49

☞大学進学予備教育、持続可能性日本語教育、論文読解、相互作用、内省

原田三千代(2015)「協働的フィードバックとしてのピア・レスポンス」大関浩美編『フィードバック研究への招待—第二言語習得とフィードバック』第5章、pp. 139-179 ころしお出版

☞協働、フィードバック、ピア・レスポンス

Barnes, L. B., Christensen, C. R., & Hansen, A. J. (1994) *Teaching and the Case Method: Text, Cases, and Readings*. Harvard Business School Press. ルイス・B. バーンズ, C. ローランド クリステンセン, アビー・J. ハンセン 著 高木晴男 訳 (1997)『実践原理 ケース・メソッド ディスカッションリーダーシップの本質』ダイヤモンド社

☞個の尊重、関係性による創造、ディスカッション形式の大学授業、ディスカッション・リーダーシップ、ケースメソッド、

伴紀子・架谷真知子・駒田朋子・佐藤恵美・加盟文馨(2002)「ライティング指導における協同訂正の導入」『南山大学国際教育センター紀要』第3号 76-90

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40005688224>

☞ライティング指導、ピア・ライティング、協同訂正、日本語教育、作文教育

房賢嬉(2004)「発音学習におけるグループモニタリング活動の可能性—学習者の意識の変化を中心に—」『言語文化と日本語教育』27 129-143

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50396/1/16\\_129-143.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50396/1/16_129-143.pdf)

☞グループモニタリング活動、内省、意識の変化、発音学習、協働

房賢嬉(2004)「発音学習におけるグループモニタリング活動の可能性—韓国人成人日本語学習者の場合—」日本語言語文化学会発表要旨 212-217

☞グループモニタリング活動、内省、意識の変化、発音学習、協働

房賢嬉(2006)「教室外活動としての発音学習日記の可能性—自律学習への働きかけを目指して—」日本語教育学会春季大会予稿集 175-180

☞教室外活動、発音学習、日記、自律学習、内省

房賢嬉(2007)「協働的な説明構築」『人間文化創成科学論叢』10 お茶の水女子大学 55-65

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/35723/1/06\\_055-065.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/35723/1/06_055-065.pdf)

☞協働学習、発音、協働的説明構築、ピアモニタリング活動、談話パターン

房賢嬉(2010a)「発音学習における自己内対話—認知的道具としての日記の可能性と限界—」人間文化創成科学論叢 12 141-151

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/49021/1/15\\_141-151.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/49021/1/15_141-151.pdf)

☞自己内対話、認知的道具、日記、内的説得力のある言葉、発音基準

房賢嬉(2010b)「韓国人中級日本語学習者を対象とした発音協働学習の試み—発音ピア・モニタリング活動の可能性と課題—」日本語教育 144 157-168

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40016986091>

☞発音学習、自己モニタリング、協働学習、対話、ピアモニタリング活動

朴恵美(2009)「中級日本語学習者のピア・レスポンスを活性化させる要素—日本人学生の参加を中心として」(第38回お茶の水女子大学日本語文化学会発表要旨)『言語文化と日本語教育』(38) 70-73

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40016924819>

☞ピア・レスポンス、中級日本語学習者、活性化、要素、日本人学生の参加

平野美恵子(2007a)「多文化共生指向の日本語教育実習生による反対意見表明の変化—ティーチャー・コミュニティー構築の過程から—」『リテラシーズ』3号 79-95 くろしお出版

<http://literacies.9640.jp/dat/Litera3-1-3.pdf>

☞協働型日本語教育実習、多様な言語文化背景、反対意見表明、第三の新たな規範、対話

平野美恵子(2007b)「多文化共生指向の日本語教育実習生における実習生間の話し合い分析—3ヶ月間の準備期間に構築されたティーチャー・コミュニティー—」『言語文化と日本語教育』33号 37-46 お茶の水女子大学日本語文化学会

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50542/1/05\\_037-046.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50542/1/05_037-046.pdf)

☞ティーチャー・コミュニティー、教師の多様性、協働的結論生成、相互補完、相互作用の組織化

平野美恵子(2007c)「多文化共生指向の日本語教育実習での非対称な関係性に見る実習生間の学び-準備期間3ヶ月の話し合い分析-」岡崎眸監修『共生日本語教育学：多言語多文化共生のために』雄松堂書店 65-84

☞ティーチャー・コミュニティー、教師の多様性、非対称な関係性、実習生間の学び、会話分析

平野美恵子(2008)「会話授業での発表活動における協働的振り返り—学習者間のピア評価実践—」『第二回ルーマニア日本語教師会 日本語教育・日本語学シンポジウム論文集』ルーマニア日本語教師会 92-100

☞会話授業、発表活動、協働的振り返り、ピア評価、学習者間の協働

広瀬和佳子(2000)「母語によるピア・レスポンス(peer response)が推敲作文に及ぼす効果—韓国中級学習者を対象とした3カ月の授業活動を通して—」『言語文化と日本語教育』第19号 お茶の水女子大学日本語文化学会 24-37

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50292/1/07\\_024-037.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50292/1/07_024-037.pdf)

☞ピア・レスポンス、作文、推敲、韓国人学習者、中級学習者

広瀬和佳子(2004)「ピア・レスポンスは推敲作文にどう反映されるか—マレーシア人中級日本語学習者の場合—」『第二言語としての日本語の習得研究』第7号 第二言語習得研究会 60-80

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40007247941>

☞フィードバック、母語、ピア・レスポンス、作文、推敲

広瀬和佳子(2012)「教室での対話をもたらす『本当に言いたいこと』を表現することば一発話の丹精機能と対話機能に着目した相互行為分析」『日本語教育』152号 30-45

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019415950>

☞対話、相互行為、作文、協働、教室談話

福岡寿美子(2006)「リメディアル教育としての基礎演習における日本語表現—アカデミック・ジャパニーズの観点を中心に—」『流通科学大学教育高度化推進センター紀要』第3号 23-33

<http://www.umds.ac.jp/facility/higher-edu/bulletin/documents/3gou3.pdf>

☞リメディアル教育、基礎演習、日本語表現、アカデミック・ジャパニーズ、ピア・レスポンス

福岡寿美子(2013)「日本人学生と交換留学生におけるピア・レスポンス」『流通科学大学高等教育研究センター紀要』第10号 1-14

☞ピア・レスポンス、日本人学生、交換留学生、作文プロダクト、グループ編成

藤枝豊(2007)「ピア・レスポンスに対する意識転換—書き手がフィードバックを構成にどう組み込むか」『共愛学園前橋国際大学論集』(7) 139-153

<http://www.kyoai.ac.jp/college/ronshuu/no-07/fujieda.pdf>(英語版)

☞ライティング、フィードバック、ピア・レスポンス、ピア・フィードバック、日本人英語学習者、

藤田朋世・フランプ順美(2009)「ピア・ラーニングの概念を取り入れたスピーチコンテストの試み—重慶大学での実践報告—」『世界の日本語教育』19、国際交流基金、199-213

<http://www.jpfi.go.jp/j/japanese/survey/globe/19/12.pdf>

☞ピア・ラーニング、スピーチコンテスト、自律学習、学年を超えたつながり、モチベーション

藤森弘子(2010)「高度専門職業人養成課程における日本人学生と留学生の協働作業及びピア評価の試み」『日本語教育』144、74-84

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40016986084>

☞協働作業、気づき、教科書リテラシー、ピア評価、日本人学生と留学生

古田一恵(2006)「作文指導におけるピア・レスポンス後の推敲」『第17回第二言語習得研究会全国大会予稿集』75-76

☞作文、作文指導、ピア・レスポンス、推敲、第二言語教育

古田一恵(2007)「ピア・レスポンス活動後の自己推敲—ビリーフとの関連—」『2007年度日本語教育学会秋季大会』197-20

☞ピア・レスポンス、推敲、自己推敲、ビリーフ、日本語教育

本郷智子(2003)「中級レベルの学習者同士による誤用訂正活動—グループ・モニタリングの実際—」『日本語教育』118 日本語教育学会 96-105

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40005913192>

☞中級日本語学習者、グループ・モニタリング、学習者間の協働、学習者間の誤用訂正、誤用訂正活動

Postholm, M. B.(2008) Teachers developing practice: Reflection as key activity. Teaching and Teacher Education, 24, 1717-1728.

☞教師と研究者間の協働、教師の成長、省察、ノルウェーの中等教育、キー・アクティビティ

Manouchehri, A.(2002) Developing teaching knowledge through peer discourse. *Teaching and Teacher Education*, 18, 715-737.

☞教師間の協働、ピア・ディスコース、省察、アメリカの中等教育、ディスカッショントピック

松本鋼次・Yuddi A Muliadi(2004)「ピア活動を取り入れた授業の効果に関する一考察—インドネシアの大学でのアクションリサーチを通して—」『日本語教育研究』105-119

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40006405518>

☞ピア活動、授業の効果、インドネシア人学習者、インドネシアの大学の日本語教育、アクションリサーチ

松本隆(1999)「自律的な推敲能力の育成に向けた文章表現の指導」アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター『紀要』22号 25-60

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40004912424>

☞協働学習、協働推敲、自律的学習、修辭的言語操作、非直接的介入

松本隆・河野玉姫・佐藤有里(2004)「ライティング授業の談話分析—学習者は協働推敲にどう参加するか」アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター『紀要』27号 1-23

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40006467478>

☞作文、授業、省察(内省)、談話分析。協働推敲

丸山伊津紀(2005)「現職日本語教師対象ピア・レスポンス体験研修の検証」桜美林大学大学院国際学研究科修士論文

☞ピア・レスポンス、現職日本語教師、体験、研修、教師研修

三原祥子(2005)「書く力を育てるピア・レスポンスを取り入れた指導(特集 学生のコミュニケーションをどう育てるか)」『看護展望』30(12) 39-42

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40007008538>

☞看護、書く力、ピア・レスポンス、作文指導、コミュニケーション力

宮城徹・花蘭悟・中井陽子 (2014)「協働による防災学習—留学生に対する4つの実践からの考察—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』(40), 201-217, 東京外国語大学留学生日本語教育センター

☞防災学習、協働、日本語教材、自助・共助・公助

宮崎清孝(2010)「授業はどんな意味で対話たりえるのか—バフチンの対話論から—」『教育と医学』58(4) 62-69

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40017154726>

☞医学、対話、バフチン、対話論、授業

六笠恵美子(2006)「中級レベルの作文指導における教師フィードバック—学習者主体の支援を施行した対話的指導—」早稲田大学大学院日本語教育研究科修士論文

☞中級日本語学習者、作文指導、教師フィードバック、学習者主体、対話的指導

むさしの参加型学習実践研究会(2005)『やってみよう参加型学習—日本語教室のための4つ

の手法 理念と実践』スリーエーネットワーク

☞参加型学習、多文化共生社会の構築、日本語教室のあり方、日本語ボランティア、対等な関係

村中和夫(2004)『ヴィゴツキー心理学完全読本―「最近接発達領域」と「内言」の概念を読み解く―』新読書社

☞ヴィゴツキー心理学、最近接発達領域、内言、子どもの発達、足場かけ

村松一徳(2006)「初級の成人学習者に対するピア・レスポンスの有効性―作文に対する動機付けの向上一」『教育学研究紀要』第52巻(2) 中国四国教育学会 550-555

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40015403158>

☞初級日本語学習者、作文、ピア・レスポンス、成人学習者、作文に対する動機付け

望月通子(2013)「ピア・ラーニングに対する学習者の認識と学びのプロセス」『関西大学外国語学部紀要』第8号 関西大学外国語学部 87-97

[http://www.kansai-u.ac.jp/fl/publication/pdf\\_department/08/087mochizuki.pdf](http://www.kansai-u.ac.jp/fl/publication/pdf_department/08/087mochizuki.pdf)

ピア・ラーニング、学びのプロセス、アカデミック・ライティング、ブレンディッド・ラーニング

元田静・館岡洋子(2007)「短期集中日本語授業における協働的学習―認知面と情意面の観点から」館岡洋子『日本語教育の授業場面における協同学習』(pp.27-86)平成16-18年度科学研究費補助金研究成果報告書

☞短期集中日本語授業、協働的学習、認知面と情意面、教室、授業場面

山本真紀代(2004)「初級段階におけるピア・レスポンスの試み」『文化外国語専門学校日本語課程紀要』第18号 文化学園外国語専門学校 57-81

☞ピア・レスポンス、初級段階、初級日本語学習者、日本語学校、作文

山本冴里(2009)「noviceがexpertの学習に貢献するとき―教室空間における相互行為と『発達の最近接領域』構築―」『世界の日本語教育』19 国際交流基金 69-88

<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/globe/19/05.pdf>

☞novice、expert、相互行為、発達の最近接領域、足場掛け

楊峻(2008a)「グループワークの経験が中国人学習者の言語学習観に及ぼす影響―日本語専攻主幹科目の受講生を対象とする実証的研究―」『世界の日本語教育』18 113-131

<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/globe/18/07.pdf>

☞精読授業、グループワーク、日本語学習観、翻訳活動、会話活動

楊峻(2008b)「グループワークを用いた教室活動に対する日本語専攻学習者の受け止め方の形成プロセス―会話活動と翻訳活動に注目する場合―」『言語文化と日本語教育』35、お茶の水女子大学日本言語文化学会 30-39

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50610/1/04\\_030-039.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50610/1/04_030-039.pdf)

☞精読授業、会話活動、翻訳活動、受け止め方の形成プロセス、日本語専攻学習者

楊峻(2009)「精読授業に導入したグループワークの実態に対する分析―協働学習の観点に立脚した実証的研究―」『日本学研究』19 161-174

☞精読授業、グループワーク、協働学習、中国の日本語教育、実証的研究

楊峻(2010)『大学の日本語授業におけるグループワークのデザイン—言語生態学を理論背景とした研究—』 外文出版社

☞大学の日本語授業、中国人学習者、グループワーク、授業デザイン、言語生態学

横山紀子・福永由佳・森篤嗣・王璐・ショリナ, ダリヤグル(2009)「ピア・リスニングの試み—海外の日本語教育における課題解決の視点から—」『日本語教育』141 日本語教育学会 79-89

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40016657386>

☞ピアリスニング、海外の日本語教育、カザフスタン、中国、非母国語話者教師

吉田一郎・大西弘高編 (2006)『実践 PBL チュートリアルガイド』 南山堂

☞医学教育、医学教育カリキュラムの改革、PBL チュートリアル、臨床問題解決、PBL チュートリアルの事例

吉本恵子・松井玲子・桑原里奈・小川美由紀・梨本順子(2005)「日本人の支援を受けた教室環境の改善—作文サポーターとは何か—」『日本語教育学会春季大会予稿集』 95-99

☞日本語教室、日本人の支援、教室環境の改善、作文、作文サポーター

李英淑(2008)「特定課題研究報告 韓国語の高校における 作文授業の現状と改善案—済州外国語高等学校でのピア推敲活動を通して—」『日本言語文化研究会論集』4 33-60

☞韓国の高校、作文授業、推敲、ピア・レスポンス、やり取り

劉娜(2007a)「JFL 環境における中上級中国語母語話者を対象とするピア・レスポンスの有効性」『言語文化と日本語教育』 33 号 お茶の水女子大学日本言語文化化学研究会 133-136

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50560/1/23\\_133-136.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50560/1/23_133-136.pdf)

☞JFL 環境、中国人学習者、中上級学習者、ピア・レスポンス、作文評価

劉娜(2007b)「ピア・レスポンス活動によって作文学習意識はどうかかわるか—JFL 環境の中上級中国語母語話者を対象に—」(第 34 回お茶の水女子大学 日本語言語文化化学研究会 発表要旨)『言語文化と日本語教育』34 78-81

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50585/1/18\\_078-081.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/50585/1/18_078-081.pdf)

☞ピア・レスポンス、作文学習意識、JFL 環境、中国人学習者、作文学習観の変容

劉娜(2007c)「ピア・レスポンス活動によって作文学習意識はどうかかわるか—JFL 環境の中上級中国語母語話者を対象に—」お茶の水女子大学大学院修士論文

☞ピア・レスポンス、作文学習意識、JFL 環境、中国人学習者、作文学習観の変容

劉娜(2008)「中国の日本語作文教育におけるピア・レスポンスの可能性」(日中韓 3 カ国合同ジョイントゼミ(北京))『大学院教育改革支援プログラム『日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成』活動報告書 平成 19 年度海外研修事業編』148-150

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/35129/1/31\\_148-150.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/35129/1/31_148-150.pdf)

☞中国の日本語作文教育、ピア・レスポンス、教師フィードバック、作文評価、作文プロダクト

劉娜(2009)「中上級中国語母語話者を対象としたピア・レスポンスの試み—学習者の振り返りシートから見た成果と課題」(第 38 回お茶の水女子大学日本言語文化化学研究会発表要旨)『言語文化と日本語教育』38 104-107

[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/51994/1/19\\_104-107.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/51994/1/19_104-107.pdf)

☞ 中国人学習者、中上級学習者、ピア・レスポンス、振り返り、作文

劉娜(2010)「中国の大学日本語教育におけるピア・レスポンスの有効性—中上級学習者の作文プロダクトに対する教師評価から—」『日本語教育研究』56 79-92

☞ 中国人学習者、中国の大学の日本語教育、ピア・レスポンス、作文プロダクト、教師評価

ルオン・ハイ・イエン「自律的学習者の育成を目指した翻訳授業—『ピア推敲』を取り入れた越日翻訳授業の試み—」『日本語文化研究会論集』第6号

<http://www3.grips.ac.jp/~jlc/files/ronshu2010/Yen.pdf>

☞ 翻訳授業、越日翻訳、「ピア推敲」、ベトナム、自律的学習者

Brammer, C. & Ress, M. (2007) Peer Review from the students' perspective: Invalid or valid? *Composition Studies*, 35:2, 7-85.

☞ ピア・レビュー、作文、学習者間の協働、推敲、有効性

Bruffee, K.A. (1985) *A short course in writing: practical rhetoric for teaching composition through collaborative learning*. Boston: Little.

☞ 短期作文授業、協働的学習、作文、文章表現、言葉遣い

Carson, G. J. & Nelson, L.G. (1996) Chinese Students' Perception of ESL Peer Response Group Interaction. *Journal of Second Language Writing*, 5:1, 1-20.

☞ ESL、中国人学習者、ピア・レスポンス、作文、グループ・インターアクション

Diab, N.M. (2011) Assessing the relationship between different types of student feedback and the quality of revised writing. *Assessing Writing*, 16, 274-292.

☞ 学習ストラテジー、ピア・エディティング、自己・エディティング、仲間との相互作用、気づき、言語への関与

Donato, R. (1994) Collective scaffolding in second language learning. In Lantolf, J.P., & Appel, G. (Eds.), *Vygotskian approaches to second language research* (pp.33-56). NY: Ablex Publishing.

☞ 協働、足場掛け、第二言語学習、ヴィゴツキー派、ことばの学習

Elbow, P. (1973) *Writing Without Teachers*. NY: Oxford University Press.

☞ 作文教育、自由作文、作文のチェックをめぐる議論、「料理」としての作文、創造的プロセス

Ferris, Dana and Hedgcock J. S. (1998) *Teaching ESL Composition Purpose, Process, and Practice*. Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

☞ ESL、作文指導、作文の目的、作文のプロセス、作文の実習

Hui-Tzu Min (2006) The effects of trained peer review on EFL students' revision types and writing quality. *Journal of Second Language Writing*, 15, 118-141.

☞ ピア・レビュー訓練、修正の質、修正タイプ、EFL ライティング、台湾

Icy Lee (2008) Student reactions to teacher feedback in two Hong Kong secondary classrooms. *Journal of Second Language Writing*, 17, 144-164.

☞ 教師フィードバック、学生の反応、L2 ライティング

Liu, J. & Hansen, J.H. (2002) *Peer Response in Second Language writing Classrooms*. The University of Michigan Press.

☞ピア・レスポンス、第二言語、作文、ライティング、教室

Long, M. (1985) Input and second language acquisition theory. In Gass, S.M. and C. G. Madden (eds.), *Input in Second Language Acquisition*, 377-393.

☞第二言語、習得、インプット、習得理論、言語習得

Lu Liu(2005) Rhetorical education through writing instruction across cultures: A comparative analysis of select online instructional materials on argumentative writing. *Journal of Second Language Writing*,14,1-18.

☞中国語の修辞、対照の修辞、比較の修辞、議論のライティング

Lundstorm, M & Baker, W. (2009) To give is better than to receive: The benefits of peer review to the reviewer's own writing. *Journal of Second Language Writing*,18,30-43.

☞第二言語ライティング、ピア・レビュー、ピア・エディティング、ピア・フィードバック

Murray, D. (1993) Collaborative Writing as a Literacy Event: Implications for ESL Instruction. In Nunan, D. (ed) *Collaborative Language Learning and Teaching*. Cambridge University Press.

☞ESL、作文、ライティング、協働学習、リテラシーイベント

Nunan, D. (1993) *Collaborative language learning and teaching*. Cambridge University Press.

☞協働的言語学習、言語教育、創造的学習、環境づくり、Appropriate Research Method

Pica, T. (1987) Second language acquisition, social interaction and the classroom. *Applied Linguistics*, 8, pp.3-21.

☞第二言語、習得、社会的インターアクション、教室内のインターアクション、相互作用

Reid J. (1993) Collaborative and Cross-Cultural Activities, *Teaching ESL Writing*, Englewood Cliffs, NJ: Regents/Prentice Hall.

☞ESL、協働的活動、文化交差、作文、作文指導

Rolinson, P. (2005) Using peer feedback in the ESL writing class. *ETL Journal*, 59-1, 23-30.

☞ESL、ピア・フィードバック、作文、ライティング、教室活動

Sherin, M. G. & Han, Y. S. (2004) Teacher learning in the context of a video club. *Teaching and Teacher Education*, 20, 163-183.

☞教師と研究者間の協働、教師の成長、授業録画、カンファレンス、アメリカの中等教育

Stanley, J. (1992) Coaching student writers to be effective evaluator. *Journal of Second Language Writing*, 1;3, 217-233.

☞第二言語、作文、ライティング、コーチング、評価者としての学生

Vygotsky, L. (1934) 『思考と言語』(上下巻) 柴田義松 訳(1962) 東京: 明治書院

☞ヴィゴツキー心理学、子どもの発達、最近接領域、足場掛け、ことばの学習

Yang Miao, Richard Badger, & Yu Zhen (2006) A comparative study of peer and teacher feedback in a Chinese EFL writing class. *Journal of Second Language Writing*, 15, 179-200.

☞ ライティング教育、教師フィードバック、ピア・フィードバック、中国

<中国編>

楚冉, 刘艳 (2015) 协同学习—小组合作学习新尝试[J] 现代交际 2015(03) 231-232

楚永娟 (2015) 协作式学习模式在高校日语精读课教学中的应用[J] 教育探索 2015 89-92

郭举昆 (2003) 「共同学习的原理与跨文化交际能力的培养—探索日语课堂教学的新模式—」『日语学习与研究』第 115 期:45-48 『日语学习与研究』杂志社(郭举昆:共同学習の原理及び異文化交流能力の育成について—日本語授業の新しいモデルについての考察—)

[http://d.wanfangdata.com.cn/periodical\\_ryxxyyj200304010.aspx](http://d.wanfangdata.com.cn/periodical_ryxxyyj200304010.aspx)

☞ 共同学習、原理、異文化交流、中国の日本語授業、授業モデル

郭世明 (1999) 「论共同学习的原理与技巧对大学外语教学改革的意义」『北京联合大学学报』1999 年 3 月第 13 卷第 1 期总 35 期 87-91 北京联合大学学报编辑部(郭世明:共同学習の原理とスキルが大学外国語教育改革への意義についての考察)

☞ 共同学習、原理、スキル、大学の外国語教育、改革、中国の大学の日本語教育

庚 海 王月会 (2003) 合作学 原 在英 教学中的 用《外 教学》第 3 期

☞ 協働学習、グループワーク、個人責任感、相互依存

胡燕静 (2015) 开放式语言教学—设计基于合作学习的学习共同体的日语课堂教学模式[J] 湖北函授大学学报 2015(28) 118-120

李建萍 (2012) 合作学 而 与学 者跨文化交 能力提升的研究《外 学刊》第 3 期

<http://mall.cnki.net/magazine/Article/OUTL201203030.htm>

☞ 異文化交流能力、人間関係、適応能力、総合運用力

刘莉 (2003) <小组合作学习中存在的问题及对策[J]>《中小学教材教法》2003(31) 21(劉莉:グループ協働学習における問題点及び対策)

<http://www.cnki.com.cn/Article/CJFDTOTAL-JXZX200331007.htm>

☞ 協働学習、グループ学習、協働学習の問題点、対策、指導法

刘娜, 穆红 (2015) 关于中国日语教师合作学习教学实践的引导策略[J] 佳木斯职业学院学报 2015(07) 294

凌明, 朱晓霞 (2015) 高职日语课堂的合作学习与跨文化交际能力的培养[J] 现代职业教育 2015(25) 108-109

李清华 (2015) 协作学习在日语阅读课教学中的应用与方法研究[J] 吉林省教育学院学报 2015(31) 66-68

李哲 (2015) 合作学习模式在软件外包专业日语教学中的应用[J] 常州工学院学报 (社科版) 2015(33) 118-120

- 穆红, 刘娜(2015) 基于合作学习理论的小组活动教学研究—以采用 PAC 分析法分析日语学习者意识结构为例[J] 开封教育学院学报 2015(35) 81-82
- 穆红, 刘娜(2015) 中国日语教师对合作学习教学实践的观念与意识[J] 中国校外教育(下旬刊) 2015(30) 18
- 潘彦葵(2015) 略论综合日语课合作式教学与教师的指导作用[J] 浙江纺织服装职业技术学院学报 2015(2) 94-96
- 宋东清等(2003)〈合作学习中“责任扩散”效应的分析及教学对策[J]〉《教育科学研究》2003(2) 10(宋東清：協働学習における「責任拡大」効果についての分析及び対策)  
<http://www.cnki.com.cn/Article/CJFDTotal-JYKY200302002.htm>  
 ☞協働学習、責任拡大、効果、中国の教育学研究、教育科学
- 沈权(2003)〈现代合作学习的理论基础探索[J]〉《中国教育学刊》2003 39-42(潘權：現代協働学習の理論基礎についての考察)  
<http://www.cnki.com.cn/Article/CJFDTOTAL-ZJYX200307010.htm>  
 ☞現代、協働学習、協働学習の理論、協働学習の基礎、中国の教育学研究
- 王春苗(2015) 合作学习模式在高级日语课堂中的应用[J] 鄂州大学学报 2015(22) 76-77
- 王坦(2002)〈论合作学习的基本理念[J]〉《教育研究》2002(2) 68-72(王坦：協働学習基本理念についての論述)  
<http://www.being.org.cn/inquiry/cooperative.htm>  
 ☞協働、協働学習、協働学習の基本理念、中国の教育学研究
- 王坦(2003)〈论合作学习的教学论贡献[J]〉《课程·教材·教法》2003(23) 16-20(王坦：協働学習基本理念についての論述)  
[http://www.dic123.com/A/D/D6/D6C\\_90730.html](http://www.dic123.com/A/D/D6/D6C_90730.html)  
 ☞協働学習、協働学習の基本理念、中国の教育学研究、カリキュラム、指導法
- 王坦, 高艳(1996)〈论合作学习的互动观及其启示[J]〉《教育评论》1996(3)(王坦、高艶：協働学習におけるインターアクション及び示唆についての考察)  
 ☞協働学習、インターアクション、示唆、中国の教育学研究、相互作用
- 王文賢(2014)「中国人学習者の協働学習活動に対する意識—ディクトグロスを経験した学習者を対象に一」『日本言語文化研究会論集』第10号  
 ☞中国人学習者、ディクトグロス、インタラクション、協働学習、パートナー
- 维果茨基(2010)〈思维和语言〉《维果茨基教育论选著》人民教育出版社 余震球选译 1-360(ビゴツキー：ビゴツキー教育論)  
 ☞ヴィゴツキー心理学、子どもの発達、最近接領域、足場掛け、ことばの学習
- 吴育□ □ □ 星 (2011) 合作学□ 降低非英□ □ □ 大学生英□ 写作焦□ 的□ □ 研究《外□ 与外□ 教学》第6期  
<http://www.cnki.com.cn/Article/CJFDTotal-WYWJ201106012.htm>  
 ☞英語作文、協働学習、学習困難

楊慧娟(2015) 参与式教学法在大学日语选修课的应用与实践研究[J]. 新课程研究  
2015(12) 40-41

□ 苗(2006) <中国英□ 写作□ 教□ 反□ 和同□ 反□ □ 比研究> <<□ 代外□ >> 2006 (3)  
293-330(楊苗：中国英語作文授業における教師フィードバック及びピア・レスポンス  
についての対比研究)

<http://mall.cnki.net/magazine/article/XDWY200603009.htm>

☞中国の英語教育、作文授業、教師フィードバック、ピア・レスポンス、対照研究

闫雪雯(2015) 综合日语课程协作学习课堂教学模式[J]. 沈阳师范大学学报 (社会科学版)  
2015(39) 126-128

左昌□ (2002)<合作学□ 的指□ 和□ 控[J]><<湖北教育>>2002(23) 5(左昌倫：協働学習の指導  
と観察管理)

<http://www.cnki.com.cn/Article/CJFDTOTAL-FBJY200223002.htm>

☞協働学習、協働学習の指導、観察、管理、中国の教育学研究

左昌□ (2003)<促□ 学生有效地合作学□ [J]><<中国教育学刊>>2003(6)(左昌倫：学習者の効  
果的な協働学習を促す)

<http://www.cnki.com.cn/Article/CJFDTOTAL-ZJYX200306012.htm>

☞協働、協働学習、学習者間の協働、協働の促し、中国の教育学研究

朱小霞, 凌明(2015) 合作学习模式在日语泛读教学中的应用[J] 学园 2015(35) 49-50

<韓国編>

石倉綾子(2003)「日本語原語民教師と韓国人教師の協同授業(Team-Teaching)に関する研  
究」高麗大学校教育大学院 修士論文

☞チーム・ティーチング、協働授業、韓国人教師、日本語原語民教師、教師間の協働

石塚健(2009)「JFL 環境の韓国語母語話者の学習者を対象としてピア・レスポンスの研究—  
質問紙調査の分析から見る協働学習の成功要因と授業デザインの可能性—」『東北亜  
文化研究』第 18 集 423-446 東北アジア文化学会

<http://www.dbpia.co.kr/Journal/ArticleDetail/1011974>

☞JFL 環境、韓国人学習者、ピア・レスポンス、協働学習、授業デザイン

門脇薫(2008)「韓国の高校における日本語協同授業の研究」同徳女子大学大学院 博士論文

☞韓国の日本語教育、高校での日本語教育、チーム・ティーチング、協働授業、教師間の協働

金志宣(2010)「ピア・リスニングを取り入れた日本語授業の実践研究—学習者の内省記録の  
分析—」『日本文化研究』第 36 輯、81-102.

<http://www.dongasia.or.kr/>

☞ピア・ラーニング、ピア・リスニング、内省、気づき、実践研究

金志宣(2011a)「ピア・ラーニングにおける自律的学習能力の促進可能性—内省に見られる  
学習ストラテジーへの気づきを中心に—」『日本文化研究』第 38 輯、99-119.

<http://www.dongasia.or.kr/>

☞ピア・ラーニング、自律的学習能力、内省、学習ストラテジー、気づき

金志宣(2011b)「ピア・ラーニングにおける自己評価の試案－『Can-do』を活用した相互行為の自己評価－」『日本近代学研究』第34輯、85-100.

☞ピア・ラーニング、自己評価、「Can-do」、相互行為、JF 日本語教育スタンダード、内省

金志宣(2012)「自律性の支援に向けたピア・ラーニングの実践と意義－内省的ピア活動の分析－」『日本文化研究』第43輯、93-112.

<http://www.dongasia.or.kr/>

☞自律性、ピア・ラーニング、内省、学習ストラテジー、自己評価

金孝卿(2004)「『セルフ内省』と『ピア内省』を組み合わせた『内省的活動』の可能性－日本語の話す・聞くことを指導する授業実践の事例から－」『日本学報』第59輯 59-73  
韓国日本学会

<http://www.kaja.or.kr/>

☞セルフ内省、ピア内省、内省的活動、話す・聞くことの指導、実践研究

金孝卿・原みずほ(2000)「自律的学習能力の養成に向けての内省的意識化の試み－聴解・会話の授業の場合－」『韓国日本学会 第61回国際学術大会 Proceeding』200-205 韓国日本学会

☞自律的学習能力、内省、意識化、聴解授業、会話授業

倉持香(2007)「中級会話クラスにおけるプロジェクトワークの効果について-動機づけに関する考察-」『日本語教育研究』13号、71-91

☞会話授業、中級クラス、プロジェクトワーク、動機づけ、韓国の日本語教育

倉持香(2008)「協働学習の事例から見る学習者主体の授業に関する考察」『日本語教育世界大会予稿集』3

☞協働学習、学習者主体、授業デザイン、教師の枠割、韓国の日本語教育

倉持香(2009)「韓国の日本語協働学習における情意的効果に関する考察」『日本文化研究』第31号、121-137

<http://www.dongasia.or.kr/>

☞学習者間の協働、協働学習、情意的効果、教師の役割、韓国の日本語教育

倉持香(2010a)「対人関係を考慮した日本語協働学習に関する考察-グループワークにおけるリーダーシップを中心に-」『韓国日本語教育学会予稿集』

☞協働学習、対人関係、グループワーク、学習者のリーダーシップ、韓国の日本語教育

倉持香(2010b)「協働学習におけるグループ編成に関する考察－大学での日本語授業をに－」『日本学報』第84号 115-126

<http://www.kaja.or.kr/>

☞協働学習、グループ学習、グループ編成、アカデミック・ジャパニーズ、韓国の日本語教育

倉持香(2011)『日本語協働学習の実践に関する研究-大学の日本語学習者を対象に-』同徳女子大学大学院博士論文

倉持香(2012)『中級日本語会話でのピア・フィードバックの試み－三段階のフィードバックを通して－』『日本言語文化』第21輯、168-190.

☞ピア・フィードバック、内省活動、きづき、インターアクション

倉持香・奈呉真理(2011)「韓国における日本語協働学習の課題－研究の実態と学習者意識調査を中心に－」『日本語学研究』第32輯、33-50.

<http://cafe.daum.net/jlak/OSaS/22?docid=3607343129&q=%F3%DA%F2%A5%FA%C5%3F%D2%AF%3F%3F%D7%E2&re=1>

☞協働学習、実践研究、学習者意識、韓国での協働学習

玉岡由子(2011)「読解授業におけるピア・リーディングの試み－大学の初級日本語学習者を対象に－」『日本語学研究』第32輯、51-67.

<http://cafe.daum.net/jlak/OSaS/19?docid=3607339319&q=%E8%AC%CB%AA%EB%A6%ED%AD&re=1>

☞ピア・リーディング、ピア活動、気づき、学習者主体、学習動機

徳間望(2010)「韓国における作文教育の課題と展望－ピア・レスポンスの考え方を取り入れた教室活動の提案－」『韓国日本語学会第22回国際学術発表会予稿集』240-243.

奈呉真理(2009a)「聴解授業における学習者同士の協働学習－相互依存関係のある活動－」『日本語文学』第45輯、27-54、日本語文学会

<http://www.trijapan.co.kr/journal/nonmun/list.php?type=read&code=board1&id=239&page=1&part=&word=&domain=>

☞学習者間の協働、協働学習、聴解授業、相互依存関係、韓国の日本語教育

奈呉真理(2009b)「会話練習における学習者同士の協働学習」『日本文化研究』第30輯 151-171 東アジア日本学会

☞学習観の協働、協働学習、会話授業、会話練習、韓国の日本語教育

奈呉真理(2010a)「協働学習の問題点-グループ活動の観察-」『日本語文学』第49輯 21-44 日本語文学会

<http://www.trijapan.co.kr/journal/nonmun/list.php?type=read&code=board1&id=243&page=1&part=&word=&domain=>

☞協働学習、協働学習の問題点、グループ活動、観察、韓国の日本語教育

奈呉真理(2010b)「協働学習における問題点の克服－初級日本語授業における効果的な導入案－」『日本文化研究』第36輯、135-155.

☞協働学習、相互作用、役割分担、ボーナスポイント

奈呉真理(2011)「文字の読み書きを習得する協働学習－学習者の裁量を生かす試み－」『日本語学研究』第30輯、139-155.

☞協働学習、ひらがな、カタカナ、学習者のアイデア

洪在賢(2003)「日本語教室における学習者間インターアクションが日本語学習に与える影響－社会文化理論の視点から－」高麗大学校大学院修士論文

洪在賢(2008)「日本語文型学習のピア・ラーニングにおける学習者同士の学びあい－インターアクションにおける相互性に注目して－」『日本語学研究』第23輯、227-247.

<http://cafe.daum.net/jlak/LNqH/1?docid=541085757&q=%FB%F3%EE%A4%FA%E7&re=1>

☞ピア・ラーニング、インターアクション、相互性、文型練習、タスク

洪在賢(2009)「学習者はピア活動をどう考えているかーピア活動に対する状況の定義と動機・目的ー」『日本語学研究』第25輯、327-340.

<http://cafe.daum.net/jlak/MwuC/1?docid=635801350&q=%FB%F3%EE%A4%FA%E7&re=1>

☞ピア活動、協働学習、タスク活動、状況の定義、動機・目的

イ・ヨン Chol, 이영철(2006)「게임을 통한 일본어 교육의 효과」원광대학교대학원 修士論文（「ゲームを通じた日本語教育の効果」）

☞ゲーム、学習リソース、効果、韓国の日本語教育

キム・ジョンヘ, 김정혜(2004)「문화체험을 통한 일본어학습」『学習ジャーナル』5(2), 부산외국어대학교 교육대학원, 67-76（「文化体験を通じた日本語学習」）

☞文化体験、学習リソース、異文化交流、日本語学習、韓国の日本語教育

キム・ナムウン, 김남은(2005)「총체적 언어접근법을 적용한 일본어 읽기 지도에 관한 연구」단국대학교대학원 修士論文（「總體的言語接近法を適用した日本語の読み指導に関する研究」）

☞学習法、總體的、言語接近法、読みの指導、韓国の日本語教育

ソン・ミラ, 송미라(2007)「협동학습 모형을 적용한 고등학교 일본어 I 의 수업분석 연구-학업성취도와 학습 만족도에 미치는 효과를 중심으로-」고려대학교대학원 修士論文（「協同学習モデルを適用した高校の日本語1の授業分析研究 -学業達成度と学習満足度に及ぼす効果を中心に-」）

☞協働学習モデル、授業分析、学業達成度、学習満足度、韓国の高校

ソン・ピルヨン, 성필연(2003)「협동학습을 통한 일본어 읽기능력 향상에 관한 연구」경상대학교교육대학원 修士論文（「協同学習を通じた日本語の読み能力向上に関する研究」）

☞学習者間の協働、協働学習、読みの授業、読み能力の向上、韓国の日本語教育

チョン・テヨン, 전태영(2008)「협동학습을 활용한 고등학교 일본어 수업모형 연구」한국외국어대학교대학원 修士論文（「協同学習を活用した高校の日本語授業モデル研究」）

☞協働学習、協働学習の活用、授業モデル、韓国の高校、韓国の日本語教育

パク・ジュンヒョ, 박준호(2004)「원어민 교사와의 협동수업(Team teaching)을 통한 효과적인 일본어교육에 관한 연구」고려대학교교육대학원 修士論文（「ネイティブ教師との協同授業(Team teaching)を通じた効果的な日本語教育に関する研究」）

☞ティーム・ティーチング、協働授業、原語民教師(ネイティブ教師)、効果的日本語教育、韓国の日本語教育

パク・ジョンフン, 박정훈(2008)「협동학습을 적용한 문자수업 모형 연구: 문자 습득률과 학습만족도를 중심으로」고려대학교대학원 修士論文（「協同学習を適用

した文字の授業モデル研究：文字の習得率と学習満足度を中心に」)  
☞協働学習の適用、文字授業、授業モデル、文字習得率、学習満足度

ムン・ジェアン, 문제안(1978)「소집단 협동 언어학습 방법에 대한 연구」『学習ジャーナル』7, 세종대학교, 69-87 (「小集団協同言語学習方法に対する研究」)  
☞グループ活動、小集団、言語学習、学習法、韓国の日本語教育

<タイ編>

大竹啓司(2007)「中級クラスにおける協働学習のアクションリサーチ」『国際交流基金/バンコク日本語センター紀要』第4号 171-180  
[http://www.jfbkk.or.th/images/japanese\\_lang/kiyo/kiyou2007/2007-16.pdf](http://www.jfbkk.or.th/images/japanese_lang/kiyo/kiyou2007/2007-16.pdf)  
☞協働学習、アクションリサーチ、中級、タイ人学習者、タイの日本語教育

加藤伸彦(2008)「初級におけるロールプレイ中心の会話授業—創造的・協働的な活動を促す教室を目指した実践活動」『国際交流基金/バンコク日本語センター紀要』第5号 165-174  
[http://www.jfbkk.or.th/images/japanese\\_lang/kiyo/kiyou2008/2008-17.pdf](http://www.jfbkk.or.th/images/japanese_lang/kiyo/kiyou2008/2008-17.pdf)  
☞協働、活動、ロールプレイ、会話授業、タイの日本語教育

斉藤三千代(1998)「ペア学習を活用した読解授業の試み」『国際交流基金/バンコク日本語センター紀要』第1号 98-108  
[http://www.jfbkk.or.th/images/japanese\\_lang/kiyo/kiyou1998/1998-10.pdf](http://www.jfbkk.or.th/images/japanese_lang/kiyo/kiyou1998/1998-10.pdf)  
☞ペア活動、協働、読解授業、タイ人学習者、タイの日本語教育

前野文康、伊牟田翼(2009)「ピア・レスポンスにおける有効なグループ編成—タイ人中級学習者の場合」『国際交流基金/バンコク日本語センター紀要』第5号 175-180  
[http://www.jfbkk.or.th/images/japanese\\_lang/kiyo/kiyou2009/198.pdf](http://www.jfbkk.or.th/images/japanese_lang/kiyo/kiyou2009/198.pdf)  
☞ピア・レスポンス、グループ活動、グループ編成、中級学習者、タイ人学習者

<台湾編> ※口頭発表は含まない

荒井智子(2009)「書くことに対する学習者の意識と作文推敲—ピア・レスポンスを取り入れた授業で—」『日語研究論文集—日語研究的新視野』大葉大學應用日語學系 251-272 致良出版 ISBN 978-957-786-491-8(論文集)  
☞ピア・レスポンス、作文授業、推敲、学習者意識、台湾の日本語教育

吳如惠(2002)「課外における協同学習の応用及び検討」『銘傳日本語教育』第5期  
☞協働学習、協働の応用、課外学習、台湾人学習者、台湾の日本語教育

小林由紀(2010)「教室活動における新たな読解授業の試み」『台湾日本語文学報』27号 2010年6月発行  
<http://taiwannichigo.greater.jp/pdf/g27/g2716kobayashisensei.pdf>  
☞協働、読解授業、教室活動、台湾人学習者、台湾の日本語教育

羅曉勤(2009)「初中級作文クラスでの推敲活動の試み—ピア・レスポンス活動を中心に—」『台湾日本語文学報』26号, 309-328(THCI)  
<http://taiwannichigo.greater.jp/pdf/g26/g2613ragyokin.pdf>  
☞ピア・レスポンス、作文授業、推敲、初中級クラス、台湾の日本語教育

羅曉勤(2009)「外国語学習環境における初中級の読解能力の向上に関する一考察ーピア・ラーニングを用いてー」2009年度『実践研究フォーラム WEB版報告』  
☞ピア・ラーニング、外国語学習環境、初中級クラス、読解能力、台湾の日本語教育

<マレーシア編>

滝口博子・古内綾子・矢野裕子(2007)「理工系科目で活用できる作文能力の育成を目指した授業について」『JAD日本語教育報告書』2007年 36-53

☞作文授業、ピアレスポンス、マレーシア人学習者、理工系学生、教師のフィードバック

木村かおり(2007)「通訳授業の試み-会話授業新形態の提案-」『マレーシア工科大学 高等専門学校 予備教育センター 研究紀要』第1号 24-30

☞会話授業、ピア活動、高等予備教育、2学年学生全員参加、文系理系教員間協働

Fong Foong Beng(2012)「ピアレビューを用いた作文授業」第9回浦和研修報告会 ポスター発表

☞ピアレビュー、作文授業、中級への移行期

木村かおり(2012)「マレーシアにおける教師の協働的学習の可能性を探るー日本語教師がつながる場の構築を目指してー」第9回マレーシア日本語教育研究発表会 ポスター発表 予稿集 22

☞授業実践報告、国外の学生との協働的学習、教師の協働的学習

<モンゴル編>

ドルジ, ネルグイ(2012)「モンゴルの中高等教育における協働的学習の導入ーパーシャル・イマージョン校での読解活動を通してー」『日本言語文化研究会論集』第8号

☞協働的学習、読解活動、モンゴル、中高等教育、パーシャル・イマージョン校

ツルバートル, オノン(2011)「発見と協働を取り入れた翻訳授業の試みー「と」「ば」「たら」の使い分けをめぐるー」『日本言語文化研究会論集』第7号

☞翻訳授業、モンゴル語、発見型文法学習、ピア活動、条件表現

<ヴェトナム編>

グエン, ソン ラン アイン(2009)「即興スピーチにおけるピア活動の影響ーハノイ大学での「話す授業」の改善を目指してー」『日本言語文化研究会論集』第5号

☞口頭表現能力、中級レベル、即興スピーチ、ピア活動、不安軽減

ルオン, ハイ イエン(2010)「自律的学習者の育成を目指した翻訳授業ー「ピア推敲」を取り入れた越日翻訳授業の試みー」『日本言語文化研究会論集』第6号

☞翻訳授業、越日翻訳、「ピア推敲」、ベトナム、自律的学習者

<インドネシア編>

ナヨアン, フランキー・レイモンド(2013)「インドネシア語話者に対する日本語教育における音声指導の効果ー母音の長短とアクセントに焦点を当ててー」『日本言語文化研究会論集』第9号

☞インドネシア語話者、母音の長短、アクセント、音声指導

ディニブディアニ(2013)「インドネシア人大学生に対するピア活動を取り入れた作文授業

―意見文を例に― 『日本言語文化研究会論集』第 9 号  
☞ インドネシア人大学生、作文授業、意見文、ピア活動、内省

<ハンガリー編>

マルコー, イムレ ラースロー(2014)「協働を促す活動を取り入れた読解授業改善の試み―ハンガリー民間日本語学校での実践―」『日本言語文化研究会論集』第 10 号  
☞ 協働、読解授業、タスクデザイン、理由や根拠の説明、能動的